

第2回三沢市協働のまちづくり推進懇話会概要

日 時：平成25年9月19日（木）18時30分～20時20分

場 所：市民活動ネットワークセンターみさわ

次 第

1. 開会

2. ♣出席者（5名）

名久井 正廣（ファシリテーター）

五十嵐 耕司（市民会議の時から参加）

宮古 博之（企業代表）

吉家 裕行（市民会議の時から参加）

小比類巻 隆（一般公募）

♣事務局（3名）

内野補佐・吉田係長・細田主査

3. 今回の検討事項

①平成25年度協働のまちづくり市民提案事業について

☆事務局説明（資料参照：進捗状況説明）

1	小川原湖親水体験 カヌースクール	7月21日（日）湖水まつりにて無料カヌースクールを開催。（終了）
2	さつき・あじさいロ ード整備事業	7月～9月にかけて植栽、草刈、清掃等の作業を実施。 作業自体はほぼ終了。
3	「うわさカフェ& 子どもの部屋」	七夕まつりやみさわ祭りで子どもたちが屋台を運営。その 売り上げは東日本大震災等へ寄附予定。
4	BBQフェスティ バル	8月4日（日）アメリカ広場にてバーベキュー検定やキッ ズバーベキュー学校を開催。（終了）
5	三沢市の資源、温泉 を考えよう Part 2	6月30日（日）温泉を考えるための温泉フォーラムを開 催。10月末まで温泉スタンプラリーを開催中。
6	寺山修司没後30 年記念事業	寺山修司記念館の裏に設置している短歌の道標を改修する とともに、寺山市民大学として短歌などの講座を開催中。
7	森のようちえん	毎月1回、市民の森などで自然に親しみ、のびのびと自由 に遊びながら子どもの自主性を伸ばす、野外保育を実施中。
8	三沢市の魅力掘起 こしプロジェクト	三沢市の知られざる歴史を取材し、写真と映像（DVD）を 展示・上映する企画を10月26、27日に開催予定。
9	イクメン・カジダン 育成事業	子育て中の男性を対象に家庭と仕事のワークライフバランス を考える講座を9月28日（土）から数回開催予定。
10	「心の詩」プロジェ クト	市内小中高校生から募集した三行詩を展示したり、朗読す るイベントを11月に開催予定。

☆意見交換

事務局：一次募集で採択された団体の事業は、概ね順調に実施されています。なお、二次募集のプレゼンテーション審査は9月25日（水）に行う予定です。

委員長：プレゼンテーション審査は公開にした方がいいのではないかと？公開することで市民に思いを伝えることができ、賛同を得られることにもつながるし、どんな風にやったらいいか、他の団体のプレゼンを見て勉強にもなると思う。

委員：プレゼンというだけで市民にはハードルが高いと思う。

②市民活動ネットワークセンターみさわ利用者アンケートについて

☆事務局説明（資料参照）

このアンケート（案）は、ネットワークセンターを訪れて利用した人に渡すという前提で作成したものです。その場で回収するので、お金をかけて送付して返信を待つよりも回収率がいいと思われそうです。この内容について、ご意見をお願いします。

☆委員からの意見

- ・登録していても利用していない団体や、去年登録していたのに、今年は登録していない団体にも送付してはどうか。
- ・回収する期間を短くして、そだなす館になったら反応が早くなったと思わせるのも手ではないか？
- ・アンケート内容は、利用者向けなので、利用していない人向けに、シンプルな文面でいいので、もう1パターン作成してはどうか。
- ・内容について、「コーディネートに関する支援」という表現はわからない人もいるのではないかと。
- ・季節ごとに利用頻度も状況も異なるので、アンケートは常時置いておき、通年でアンケートを行い、それを短いスパンで回収し、随時反映させ、統計を取ってほしいと思う。
- ・結果は掲示やHPに掲載して、すぐに対応できるものは対応して、リアルタイムで反映できるようにすればいい。
- ・書いたアンケートは見られたくないだろうから、回収はポスト形式にして、用紙は来たときに渡したり、初めから各部屋に設置しておいてもいいと思う。
- ・重複しないように9月、10月と、月ごとに連絡事項や宣伝を入れるなど、毎月内容を工夫して、重複や、この前書いたからもういい、という事にならないようにしてはどうか。

③協働に関する研修会などの開催について

☆事務局より、地域ワークショップ（案）説明（資料参照）

広報広聴課と懇話会とで協力して、市民と職員が一緒に話し合う場を設け、地域の課題解決のための話し合い方や合意形成の方法を学んでいくようなワークショップを開催してはどうかと考えています。そのための予算は市町村振興会から確保する予定です。実施時期は1月～2月の間に3回と考えています。このことについて皆さんのご意見をお願いします。

★委員からの意見

- ・三沢のことを分かっている講師ならいいが、県外からわざわざ呼んだ講師から他の市町村の事例を紹介され、付箋を貼りつけるなどの手法を聞かされて、さあやってみろと言われても、やらされた感しかないので、講師を呼ばずに、職員が市民の話を聞く場を設けて、好きに話をさせればいいと思う。
- ・協働に取り組んでまだ5年しか経っていない。市の職員ですらファシリテーターができる人材が少なく、そういうこともあって、講師は外から呼ばないとできない状況で、どんな講師がいいのか、常に情報を求めているという状態です。
- ・外部から呼ぶのであれば、三沢に来たことがあって、先頭を切ってまちづくり活動をしているリーダーのような人がいいのではないか。例えば、大間の島さんの活動は共感しやすい。そして、県内から講師を呼んだ方がつながりもできやすくいいと思う。
- ・ワークショップというと敬遠されがちなので、地域交流会というような言葉に変えた方が参加しやすいと思う。
- ・型にはまったワークではなく、話し合いの場を設けることから始めてはどうか。
- ・防災や教育など、市民全般に共通するテーマで行えばいいのではないか。市民と職員が一緒になって一つの事に意見を出し合い行うスタイルがいいと思う。また、様々な年齢の人達と一緒にいるのが望ましい。高校生とか、学生の参加があってもいいと思う。
- ・参加した人にやさしい雰囲気が必要。どんな意見も受け入れられるような。その場をこわすような人をサポートする体制が必要ではないか。
- ・必ずその場を壊す意見を出す人がいるので、取りまとめたり、話の方向を修正するファシリテーターが各テーブルに必要となってくる。
- ・ワークショップは継続していかないとダメなので、1回目に来た人が次も来たいと思うような仕掛けをして、必要性を感じさせないと来なくなると思う。

☆最後に

次回以降の日程について

10月23日(水)を予定。

- ・利用していない団体に対するアンケート(案)について
- ・地域ワークショップの検討について

4. 閉会